BATJ Journal 執筆基準: 原稿の書式及び注意

日本語原稿 [論文の部(調査・実践論文)、ノートの部(研究ノート、調査・実践ノート)、修士論文紹介の部、大会発表報告の部]

- **原稿作成サンプル文書 (Sample Document JP) に上書きして原稿を書くこととする。**'Sample Document JP'のファイルはジャーナルのサイトからダウンロードをすることができる。
- サンプル文書は、以下の書式に準拠する。

1 原稿の書式

Word 文書、または Word 文書と互換性のあるソフトで作成する。
A4 版 (210mm × 297mm) 横書き、行間 1 行、余白上 30mm、下 25mm、左 25mm、右 25mm、1 ページの行数 47 行、1 行の文字数 45 字。
日本語用フォント明朝体、英字用フォント Times New Roman。
題名:フォントサイズ 12pt、太字、中央寄せ。
本文:フォントサイズ 10pt、両端揃え。
文末注:フォントサイズ 9pt。
参考文献:フォントサイズ 9.5pt、ぶら下げ 2 字。(画面での設定方法:書式→段落→「インデントと行間隔」を開き、インデント欄の「最初の行」を「ぶら下げ」と選択し、「幅」の欄に「2 字」と入力する。)

2 原稿の内容:次の内容を以下の順に掲載する。

① 題名
② 本文
- 各段落1字下げる。

③ 注
- Word の脚注機能は使用しない。
- 注は脚注とせず、文末注とする。
- 注は本文中に数字を上付添字(1,2,3,…)として入れ、本文のあとにまとめる。
- 添字を文の終わりにつける場合は、句読点の前につける。
- 注は全体の文字数に含まない。

④ 参考文献
⑤ 付録、資料

3 執筆に際する注意

見出しの取り方は以下の方法を採用する。
大見出し 1. 2. 3.

中見出し 1.1 1.2 1.3
小見出し 1.1.1 1.1.2 1.1.3

- 見出しフォントは、10pt、太字を使用する。
- 見出し数字のあとは、スペース（全角 1）を入れ、表題を書く。
- インデントはしない。

4 表記上の注意

- 強調には下線は使わず、ゴシック体あるいは斜体とする。
- 数字（年月日等）は算用数字半角（Times New Roman）を使用する。
- 英字（アルファベット）は半角（Times New Roman）を使用する（例：CD）。
- 括弧[（ ）]は全角を使用する。
- 感嘆符[！]、疑問符[？]は全角を使用する。
- ローマ字表記：訓令式（内閣訓令第1号「ローマ字のつづり方」）若しくはヘボン式のいずれかに従い、統一する。
- Mr、Ms、Mrs、Prof 等の後にピリオド[.]はつけない。
- 本文中の句読点は、[、][。]を使用する。

5 本文中の引用書式：

- 3 行未満の直接引用には、鉤括弧[「 」]を使用する。また、引用文献の著者名、発行年、引用箇所の頁番号を入れる。
  例）「……」（迫田 1999: 13-14）
  迫田（1999: 13-14）によると、「……」
  （数字、コロンは Times New Roman（半角）を使用する。コロンのあとに半角スペースを入れる。）
- 3 行以上の直接引用の場合は、鉤括弧[「 」]を使用せず、改行した上で、左右 3 字ずつインデントし、引用文を入れる。
- 引用文献の著者が 2 名以上の場合は、中黒点[・]で著者名をつなぐ。アンド[&]は使用しない。
  例）（海保・柏崎 2002）
- 引用文献の数が複数の場合は、各文献をコンマ[,（全角）]でつなぐ。
  例）（海保・柏崎 2002, 小柳 2004）

6 図表、写真等

- それぞれの通し番号を付し必ず表題（フォントサイズ 10pt）を表の上に左寄せで次の要領でつける。
  表（スペースなし）1[通し番号（半角）]：[全角コロン]（スペース[全角 1]）表題
  例）表 1： 学習者の人数
- できるだけテキストボックスを使用して作成する。
- 図表や写真などは白黒である必要はなく、カラーを使用しても構わない。

7 参考文献

- 記述言語別に分類し、まず日本語参考文献の著者または編集者名を 50 音順に並べ、続いて英語など他の言語による文献をアルファベット順に並べる。

- 文献一覧と本文中の引用文献が一致していること。
- 参考文献の表記に日本語の句読点[、][。]は使用しない。また、括弧[（ ）]、コンマ[,]、ピリオド[.]は全角を使用する。
- 英語などアルファベット言語の参考文献は、英語論文執筆基準の参考文献の書き方を参照する。
- 各参考文献の 2 行目以降はぶら下げ 2 字とする。（画面での設定方法：書式→段落→「インデントと行間隔」を開き、インデント欄の「最初の行」を「ぶら下げ」と選択し、「幅」の欄に「2 字」と入力する。）
- 日本語の文献に関しては、原則として以下に従って書く。

① 単行本の場合：著者名もしくは編集者名（発行年）『書名』, 発行所.

例） 迫田久美子（1999）『第二言語習得論』, アルク.
海保博之・柏崎秀子（2002）『日本語教育のための心理学』, 新曜社.
日本語教育学会（編）（1995）『タスク日本語教授法』, 凡人社.

② 学術誌の場合：著者名もしくは編集者名（発行年）「表題（論文名）」, 『雑誌名』巻もしくは号, 頁–頁.

例） 青木直子（1991）「コミュニカティブ・アプローチの教育観」, 『日本語教育』73 号, 12–22.

③ 単行本のある論文（章）を使う場合：著者名もしくは編集者名（発行年）「表題（論文名）」, 『書名』編集者もしくは著者名, 発行所, 頁–頁.

例） 横溝紳一郎（2000）「アクション・リサーチ」, 『日本語教育学を学ぶ人のために』青木直子・尾崎明人・土岐哲編著, 世界思想社, 210-231.

④ ウェブページを参考文献として入れる場合は、その URL 及び参照した日付を記載する。

例） 国際交流基金日本語国際センター「日本語教育国別情報＜英国＞」2007年3月16日http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2005/uk.html

⑤ 同じ著者名の文献が続く場合は、2 冊目以降も著者名を繰り返す。

例） 縫部義憲（1991）『日本語教育学入門』, 創拓社.
縫部義憲（1994）『日本語授業学入門』, 瀝々社.

⑥ 同じ著者名で同じ発行年の場合は発行年に a, b, c と入れていく。

例） 吉崎静夫（1998a）「授業の流れを予測する」, 浅田匡・生田考至・藤岡完治編著『成長する教師：教師学への誘い』, 金子書房, 89-103.
吉崎静夫（1998b）「一人立ちへの道筋」, 浅田匡・生田考至・藤岡完治編著『成長する教師：教師学への誘い』, 金子書房, 162-173.

⑦ 翻訳された著書の場合は以下の例に従う。

例） エリス, R.（1988）『第 2 言語習得の基礎』, 牧野高吉訳, ニューカレントインターナショナル. [Ellis, R. (1985). *Understanding Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.]

8 その他

- 特殊文字を含む原稿、図表・写真等が多い原稿の場合は、あらかじめジャーナル・コーディネータに連絡する。
- 要旨は論文が採択になり、ジャーナルに掲載することが最終決定された後に提出する。

2017 年 9 月 改定
BATJ Journal 委員会